

大山町議会議長 米本 隆記 様

大山町議会議員 門脇 輝明

令和6年大山町議会議員研修報告書

1	日 時	令和6年7月29日(月)～7月30日(火)	
2	研 修 地	大山町役場本庁舎 オンライン研修	
3	研 修 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1)曖昧な弱者とその敵意～社会分断の新たな構造～	(発信地)
		(2)ともにいきる 未来につなぐ みんなでつくる「健康しが2.0」	全国市町村国際文化研修所
		(3)「労働供給制約社会」への処方箋	
		(4) こどもたちの生きる力を育む～「COLOMAGA プロジェクト」の活動の軌跡～	
研修結果 又は概要 6666(意見・感想)	(1) 曖昧な弱者とその敵意～社会分断の新たな構造～ 講師：成蹊大学 教授 伊藤 昌亮 先生  東京都知事選の候補であった石丸氏の活動を例にして、現代社会の中核をなす年代層(特に就職氷河期と言われた時代に社会人となった世代)の人たちの中に「自分は何らかの支援を受けるべき弱者であるにも関わらず、社会的な支援は何もうけていない。」と考えている人を曖昧な弱者と定義して、そのような人が急激増えて、社会の分断の一因となっているとの分析のもと、従来の弱者救済、子育て支援等の施策に加え、「曖昧な弱者」に対する施策も併せて取り組む必要があると訴えられた。		
	(2) ともにいきる 未来につなぐ みんなでつくる「健康しが2.0」 講師：滋賀県知事 三日月 大造 先生  知事の自己紹介、滋賀県の概要、知事として取り組んでいる施策等について話があった。  知事が、現場の状況を把握した上で、施策について明確に発信し、丁寧に説明を尽くす姿勢に好感が持てた。		

		<p>(3) 「労働供給制約社会」への処方箋  講師：リクルートワークス研究所主任研究員 古屋 星斗 先生</p> <p>従来、経済活動に必要とされる労働力は、経済の動向により変動してきたが、今後は少子高齢化、人口減少に伴う労働需要の増大と労働供給量の減少により、このまま放置すれば2040年には1100万人の労働力不足に陥り、様々なサービスの提供が困難になることを様々な数値を示されながら、早急に対策に取り組む必要があると訴えられた。</p> <p>非常に厳しい状況にあるが、この2～3年が対策をとるチャンスであり、従来の施策にある無駄な労働需要の削減と業務の自動化等による労働供給量を増加させる工夫が大切であると話された。</p>
		<p>(4) こどもたちの生きる力を育む～「COLOMAGA プロジェクト」の活動の軌跡～  講師：COLOMAGA プロジェクト本部事務局長 高橋 いづみ 先生</p> <p>「COLOMAGA」とは、子どものたちが作るローカルマガジンを略したものであり、この10年以上続くマガジン作成プロジェクトを通して、こどもたちが自ら地域への愛着を育て、地域振興の担い手となっていく様子や地域社会に与える影響等について話された。</p> <p>学校等における従来型の郷土愛教育ではなく、小さな活動であっても、こどもたち一人一人の自主性を尊重した活動が確かな成果を上げることができると実感を得ることができた。</p>
<p>調査結果  又は概要  (意見・感想)</p>		<p>(5) まとめ</p> <p>JIAM の議員特別研修を受講して感じることは、毎回、新しい啓発や発見気づきがあり、ありがたいと思う。今後も積極的に参加していきたい。</p>